設　置　計　画　の　概　要

	事前伺い
大学の名称：鳥取大学　計画の区分	研究科の専攻設置

新設学部等の状況（学年進行終了時における状況）

学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等：学位又は称号	授与する学位等：学位又は学科の分野	開設年度	専任教員：異動元	専任教員：助教以上	専任教員：うち教授
連合農学研究科（博士課程）	国際乾燥地科学専攻	3		9	博士（農学）	農学関係	平成21年度	生物環境科学専攻	20	9

既設学部等の状況（現在の状況）

学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等：学位又は称号	授与する学位等：学位又は学科の分野	開設年度	専任教員：異動先	専任教員：助教以上	専任教員：うち教授
連合農学研究科（博士課程）	生物環境科学専攻	7		21	博士（農学）	農学関係	平成元年度	生物環境科学専攻	47	29
								国際乾燥地科学専攻	20	9
								退職（２０年度末）	2	2

【備考欄】

鳥取大学大学院連合農学研究科の構成：鳥取大学（基幹校），島根大学・山口大学（構成校）

連合農学研究科（既設）
- ・生物生産科学専攻 → ・生物生産科学専攻
- ・生物環境科学専攻 → ・生物環境科学専攻
- ・生物環境科学専攻 → ・国際乾燥地科学専攻（新設）
- ・生物資源科学専攻 → ・生物資源科学専攻

連合農学研究科（新設）

教　育　課　程　等　の　概　要

（連合農学研究科　国際乾燥地科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	農学特論Ⅰ	1		1		○			9	10	1	0	0	メディア ※1
	農学特論Ⅱ	1		1		○			9	10	1	0	0	メディア ※1
	生物生産科学特論Ⅰ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	生物生産科学特論Ⅱ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	生物環境科学特論Ⅰ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	生物環境科学特論Ⅱ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	生物資源科学特論Ⅰ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	生物資源科学特論Ⅱ	2		1		○								メディア 隔年開講 ※2
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2		1		○			9	10	1	0	0	メディア 隔年開講 ※2
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2		1		○			9	10	1	0	0	メディア 隔年開講 ※2
	科学コミュニケーション	2	1			○	○		9	10	1	0	0	※3
	小計（　11科目）		1	10					9	10	1	0	0	
専門科目	国際乾燥地科学教育指導	3		1			○		9	5	0	0	0	
	海外実習	2		1				○	9	10	1	0	0	
	国際乾燥地科学特別実験	1-2	2					○	9	10	1	0	0	
	国際乾燥地科学特別演習	1-3	6				○		9	10	1	0	0	
	小計（　4科目）		8	2					9	10	1	0	0	
合計（　15科目）			9	12					9	10	1	0	0	

備考

専任教員等の配置は、国際乾燥地科学専攻の教員のうち各授業科目の担当可能な教員数。

※1
講義は、「多地点制御遠隔講義システム」により、年2回（農学特論Ⅰ：6月、農学特論Ⅱ：11月）開講する。
講義の実施方法は、全国6連合農学研究科の中から議長局を定め、議長局が授業計画を作成の上、各連合農学研究科の教員が講師を担当し実施する。
担当教員は、全国6連合農学研究科の教員のうち、農学特論Ⅰは8名（うち鳥取大学大学院連合農学研究科から2名程度）、農学特論Ⅱは12名（うち鳥取大学大学院連合農学研究科から2名程度）の教員が担当。

※2
講義は、鳥取大学大学院連合農学研究科の3構成大学の専攻教員（計3名）により、遠隔講義システムを利用して開講する。

※3
連合農学研究科所属教員と、各専攻より教員1～2名の6名程度が担当

各授業科目の特論Ⅰは日本語、特論Ⅱは英語で行う。

（注）多地点制御遠隔講義システム
全国6連合農学研究科（18大学）を双方向に接続し、高解像度画質で講義内容、資料情報等を高精細に映し出すことが可能なシステム

学位又は称号	博士（農学）	学位又は専攻の分野	農学関係

設　置　の　趣　旨　・　必　要　性

Ⅰ 設置の趣旨・必要性

(a)改組の必要性

21世紀に人類が生存していくために必要な食料を安定して供給するには、地球規模での砂漠化防止に向けた取り組みが求められている。そのためには、乾燥地農学に関する自然科学から人文社会学までの広範囲な分野を学際的でしかも横断的に統合した体系的カリキュラムのもとで教育研究を行うことが必要である。

このため、国際乾燥地科学専攻の設置により、乾燥地農学に関する個別研究分野を横断的に統合した教育研究体制の強化を図り、世界的な農業地の砂漠化と緑化及び乾燥地における食料生産等の乾燥地農学問題を解決することが可能な高度で実践的な研究者と技術者を育成する。

(b)教育研究上の理念、目的

乾燥地農学に関する個別研究分野を横断的に統合した教育研究を行うことにより、乾燥地農学領域において、国際的・先導的な役割を果たし、世界的な農業地の砂漠化と緑化及び乾燥地における食料生産等の乾燥地農学問題を解決することが可能な高度で実践的な研究者と技術者を育成することを目的とする。

(c)養成する人材像

乾地作物学、植物機能学、乾地緑化学、保全情報学、水利学、灌漑排水学、農業気象学、土壌圏科学、国際食料経済学等の乾燥地農学に関する教育研究分野を横断的に統合した高度な教育研究活動を通じ、乾燥地農学領域において、国際的・先導的な役割を果たすことが可能な人材を養成する。

Ⅱ 教育課程編成の考え方・特色

(a)教育課程編成の考え方

授業科目は大きく「共通科目」と各専攻内の「専門科目」に分けられる。

共通科目は、広い視野に立った高度な農学探究者として共通に持つべき教養を体得させるとともに、自己の専門分野に関連のある分野の深い知識を修得させるために開講するものである。「農学特論Ⅰ（日本語）及びⅡ（英語）」（選択）は、全国の6連合農学研究科（岩手大学、東京農工大学、岐阜大学、愛媛大学、鹿児島大学及び鳥取大学）と連携し、構成大学を結んで遠隔講義システムにより年2回開講される。各専攻名の付いた「特論Ⅰ（日本語）及び　Ⅱ（英語）」（選択）は、本研究科の3構成大学の教員により遠隔講義システムを利用して開講される。「科学コミュニケーション」（必修）は、中国・四国地区国立大学大山共同研修所において合宿形式で開講され、各自の研究発表や討論等を行う。なお、共通科目は、いずれも集中方式で実施される。

専門科目として、「国際乾燥地科学教育指導」（選択）、「国際乾燥地科学特別実験」（必修）及び「国際乾燥地科学特別演習」（必修）を開講し、学生の主指導および副指導教員が協力して先端及び最新の学術研究に関する講義や研究指導を行う。さらに、国際乾燥地科学専攻の特色として、海外における研究調査、海外の研究機関等での研修、国際会議等への参加・発表を行う「海外実習」（選択）を開設する。

また、研究指導や論文指導は、主指導教員と同じ構成大学の副指導教員1名及び他構成大学の副指導教員1名の計3名により効率的に実施される。

(b)教育課程編成の特色

1. 全国の連合農学研究科及び本研究科構成大学の教員が連携して共通科目を開講することにより、研究者、技術者としての広範な基礎学力や実践力などを身につけることができる。
2. 専門科目の開講により、主指導教員と副指導教員2名による計画的かつ効率的な講義と研究指導が実施できる。
3. 「海外実習」により、海外の研究者との交流や国際的感覚を養うことができる。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
所定の授業科目を履修して12単位以上（必修科目9単位以上、選択科目3単位以上）を修得するとともに、博士の学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週
	1時限の授業時間	90 分